

荷電粒子管理運営委員会 2000年度 第1回議事録

日時：2000年5月1日(月) 18:30— 21:00

出席者：大西、岡部、加藤、千葉、片山、能登、平林、布施*1、大林*1、升井*1

欠席者：なし

議長：大西、書記：大林 *1:オブザーバ、*2 アシスタント

No#A-#B-#C

#A: 第A回委員会、#B: 議案番号、

#C: R/報告、P/提案、D/議論、A/活動分担、C/決議事項

-
- No1-1-R 千葉 昨年度のEXFOR変換データの処理について。
昨年度EXFORへ変換したデータは論文数にして9件であるが、修正が必要であり完全に変換が完了していない。
- No1-1-P 千葉 昨年度のEXFOR変換データの処理について。
昨年度分の変換作業を早期に完了させたい。
- No1-1-A 全員 昨年度のEXFOR変換データの処理について。
千葉は加藤に変換データファイルを送り、加藤は各委員にファイルを分担させて変換データ内容のチェック及び修正作業を行う。
- No1-3-R 加藤 研究助成
CONTIPシステムの研究開発のため、財団法人 北海道科学・産業技術振興財団(略称：ホクサイテック財団)の研究開発助成への申請を予定している。加藤を研究代表者とし、千葉、大林、升井、及び(株)シーズラボからの2名を含む産学協同の研究グループで申請を行う。
- No1-4-R 加藤 VBL外部評価
2000年3月28日のVBL外部評価においてNRDFに関わる成果の報告を行った。今後もVBLで生まれた技術をNRDF関連に応用することを検討してゆく。
- No1-5-R 能登 NTX WG活動報告
現在進行中のNRDF辞書に関する議論について、
1. 数値テーブル上のデータヘディング辞書(H辞書)の導入
2. 従来コード化できなかった反応過程に対するコード導入の検討
3. 辞書クラスの拡張の検討
4. コーディングシートの仕様の再検討
の議論を行っている。変換システムの構築に際しては、NRDFとEXFORの反応の表記法の違いを認識しそれを反映させる必要があり上記の検討を行うにいたっている。また辞書の議論を通じデータ採録方針をも再検討する必要があると考えておりその点も議論してゆきたい。
- No1-6-C 今年度体制、役割分担の確認
主な役員の体制として、委員長：加藤、議長：大西、年次報告書編集委員：能登、平林、NTX-WG委員長：片山、Evaluation-WG委員長、平林の体制で活動する。また、助言委員については後日調査の上再確認を行うこととする。
- No1-8-P 今年度の重点的活動
今年度の活動における重点課題について議論した。
- No1-8-A WGs 今年度の重点的活動
NTX-WGはNTXシステムとコーディングエディタの完成を今年度の重点課題とする。またEvaluation-WGについては大西、平林、岡部で案を作りそれをもとに議論することとする。
- No1-9-C 次回運営委員会
次回は 6/5 (月) 17:30より開催
- No1-9-C 委員会スケジュール
毎月始めの月曜 17:30より情報メディア教育研究総合センターにて行う事とする。

荷電粒子管理運営委員会 2000年度 第2回議事録

日時: 2000年6月5日(月) 17:30— 20:00

出席者: 大西、岡部、加藤、千葉、片山、能登、平林、大林*1、升井*1、吉田*2

欠席者: なし

議長: 大西, 書記: 大林 *1:オブザーバ, *2 アシスタント

No#A-#B-#C

#A: 第A回委員会, #B: 議案番号,

#C: R/報告、P/提案、D/議論、A/活動分担、C/決議事項

-
- No2-1-R 加藤 0. Schwerer氏の滞在時期
0. Schwerer氏の滞在期間を9/29-10/31に予定している。
- No2-2-P 加藤 収集データの著者確認方法の検討
JCPRGで収集しNRDFでコード化したファイルが論文著者により確認されるような研究者間連携の枠組みを作る事を検討したい。
- No2-3-P 加藤 収集可能な論文数の減少について
近年のNRDFへ収集可能な論文数の減少傾向の分析を進めたい。この分析には原子核が専門である運営委員の協力が必要である。場合によっては実験目的の変遷などに対応してNRDFの収集対象データの拡大、変更が必要となる可能性もあるだろう。
- No2-4-R 加藤 青木由香氏
青木由香氏(東北大学)が先日学位を取得した。現在、次期ポスト着任までの2,3ヶ月間北大に滞在しNRDF収集活動に協力をいただけることになった。この機会に実験屋からの観点でのNRDFに対する意見、提案等を議論する機会を持ってゆきたい。
- No2-5-A 加藤 核データ事業費の用途 No1-7
6月上旬に核データ事業費の予算が決定する予定であり次回以降に議論することとする。
- No2-6-R 加藤 NRDC AGM Meeting
5/15-5/19の間、ロシアのオプニンスク市にて核反応データセンター長会議(NRDC AGM Meeting)が開催。加藤、千葉そして大林が参加した。
- No2-7-R 加藤 ホクサイテック研究助成 No1-3
産業化シーズ支援事業(5/10締め切り)の申請をすることとなった。
- No2-8-R 千葉 NNDCの核データ収集計画
核データセンター長会議で注目した議案として、Phys. Rev. C誌に投稿された実験論文の著者がその論文の数値データをNNDCに送付するプログラムの試験的開始の報告と各センターへの協力の提案があった。一旦NNDCで集められた論文著者からのデータはそれぞれ、収集責任を持つデータセンターに送付される。数値データを受け取ったセンターはその後3ヶ月以内にその他必要な情報をコード化したEXFORデータとしてIAEAに送付する。上記の会議では以上の手続きを試験的に行うことの提案に全センターが合意、実際に実行してみることとなった。
- No2-9-R 千葉 EXFORアーカイブ型辞書
EXFOR辞書の書式にはNNDCが開発したもの(アーカイブ辞書)とIAEAがセンター間の辞書流通のために開発したもの(トランスファイル辞書)の二種類がある。現在はトランスファイル辞書が各センターに送付するEXFOR辞書として流通しているが、その作成には最初にアーカイブ辞書を作成しそれをトランスファイル辞書に変換した後各センターに送付されているのが現状である。これについて従来よりNRDCでは辞書の流通フォーマットをアーカイブ辞書形式に変更することが検討されており、各データセンターは対応を検討するように求められている。先のセンター長会議において我々JCPRGはこの辞書フォーマットの変更に対応していく意思を表明した。会議の後現在ではIAEA-NDSのFTPサイトよりアーカイブ辞書が入手できるようになっている。
- No2-10-R 能登 年次報告書
年次報告書の入稿が終わり印刷作業に入っている。総ページ数は95ページとなる予定。
- No2-12-P 加藤 新規NRDFコードのproof作業
新規にコード化されたNRDFデータのチェック等proof作業を管理運営委員会で行うことを提案する。
- No2-12-C 新規NRDFコードのproof作業
本委員会において新規NRDFデータのproof作業を行うこととする。

- No2-13-P 加藤 データのコード化方針について
論文で数値として測定されていないが理論的に導出した(推測した)数値がかかっている場合のコード化方針について議論する。
- No2-13-C
NTX-WGには、EXFORとNRDFの相違点を明確にし、相互のフォーマット変換のためのルールの導出を意識した活動を求める。
- No2-14-A 全員 昨年度EXFOR変換データ処理 No1-1
継続して活動し次回以降状況を報告する。
- No2-15-C 次回運営委員会
今回は7/3 (月) 17:30より開催。

荷電粒子管理運営委員会

2000年度 第3回議事録

日時: 2000年7月3日(月) 17:30— 20:00

出席者: 大西、岡部、加藤、千葉、能登、平林、升井*1、吉田*2、青木*1

欠席者: 片山

議長: 大西, 書記: 大林 *1:オブザーバ, *2 アシスタント

No#A-#B-#C

#A: 第A回委員会, #B: 議案番号,

#C: R/報告、P/提案、D/議論、A/活動分担、C/決議事項

- No3-2-R 能登 年次報告書
年次報告書の印刷は表紙印刷ミスがあったため修正が行われた後に完了する予定である。
- No3-4-P 加藤 EXFORコードの提案の検討
fissionの記述やwave lengthなど最近NRDCメーリングリストでも他のセンターからEXFORコードへの提案が行われている。我々でも検討してはどうか?
- No3-4-A 全員 EXFORコードの提案の検討
次回以降の議題とする。
- No3-5-P 能登 (NTX-WG) NRDF辞書整備について
Data tableで用いるData heading用辞書(H辞書)の整備を開始したい。具体的にはData headingが未定義のまま注釈としてコード化されている物について新規辞書登録を行い、それに基づいてデータの修正を行ってゆく。また、研究所コードの更新作業も同時に取りかかりたいと考えている。
- No3-5-C NTX-WG NRDF辞書整備について
能登からの提案によるNTX-WGでの辞書整備作業の進め方を本委員会において了承するものとする。
- No3-6-R 青木 コーディングについての問題点
青木氏からコーディング作業での問題点について別紙にまとめたように報告が行われた。
- No3-6-A NTX-WG コーディングについての問題点検討
NTX-WGは青木氏の指摘部分について、新しいコードの提案に向けて作業を行うこととする。加藤は現在のRTYコードの導入意図について確認する。EXFORコードの現状については能登が報告する。
- No3-7-C 次回運営委員会
次回は8/7(月) 13:30より開催。

荷電粒子管理運営委員会

2000年度 第4回議事録

日時：2000年8月7日(月) 13:30— 16:00

出席者：岡部、加藤、千葉、能登、平林、大林*1、升井*1、吉田*2、布施*1

欠席者：大西

議長：大西，書記：大林 *1:オブザーバ，*2 アシスタント

No#A-#B-#C

#A: 第A回委員会，#B: 議案番号，

#C: R/報告、P/提案、D/議論、A/活動分担、C/決議事項

-
- No4-1-R 加藤 文部省への活動報告
7/13に文部省へ行き、本年度報告書を提出し昨年度の活動報告を行った。
担当者との対話において、
1) 今後の財源の見通しについて、今年度の事業費予算は従来通りであるが来年度は未定であること。
2) 民間との共同によるデータ利用システムの開発について、事業費は科研費でありその成果物であるNRDFデータをの著作権は文部省にありその点に注意して欲しい旨の話があり、更に著作権に関わるガイドライン文書を受け取った。
- No4-2-R 加藤 シグマ委員会
7/13にシグマ委員会に出席した。
シグマ委員会によって連携を取っている国内の核データ活動は1)原研主体の活動と2)大学間連携活動に大別され、我々は2)に属する。我々の活動報告については、升井氏のwww版データ閲覧、データ入力システムの報告は各委員の興味を引いたようであり、更にEXFORについて同様なシステムの導入への要望が強かった。
議題としては、原子力学会で創立された核データ部会のあり方について、また2001年につくばにて開催される核データ国際会議に関する議論などが行われた。
- No4-3-R 加藤 RTYコード
RTY(反応過程)コードの入力方針の議論のため、RTYコード導入の当初の目的について、助言委員である出中一氏、河合光路氏に確認をとった。河合氏からは 反応過程はそもそもオブザーバブルでなく不定要素が多いため厳密なコード化は無意味であるが、弾性散乱、非弾性散乱など比較的明確に区別できるものをだまかに分類するためのコードとして導入されたとの説明を受けた。
- No4-4-R 能登 H型辞書
データテーブル上のHeading辞書(H型辞書)の形式を決め入力を開始している。
- No4-5-P 加藤 CONTIP CD-ROM
昨年作成したCONTIP 試作版CD-ROMを助言委員に送付したい。
- No4-5-C 加藤 CONTIP CD-ROM
助言委員に昨年度版のCONTIP CD-ROMを送付することとする。
配布に際しては、再配布禁止など注意事項を明記することとする。
- No4-6-R 加藤 Nuclear Data Wallet
NNDCからNuclear Wallet Cardsが発行されている。(Evaluated Nuclear Structure Data File)ENSDFを元にした核構造データの小冊子である。Email: nndc@bnl.govへコンタクトしNNDCに請求すれば入手可能になっている模様。
- No4-7-P 大林 年次報告書
年次報告書に会計報告を掲載してはどうか。
- No4-7-A 編集委員 年次報告書
年次報告書に決算報告を掲載する方向で検討する。
- No4-7-C 年次報告書
Acknowledgeとして、データ収集活動は文部省事業費によってサポートされていることを記述することとする。
- No4-8-P 加藤 Schwerer氏
Otto Schwerer氏来札時の、作業内容や日程について議論したい。
- No4-8-A 加藤 Schwerer氏
Schwerer氏にセミナーや講義の依頼を行う。内容については次回、本委員会にて議論することとする。

No4-9-P 大林 資料配布

本管理運営委員会にて用いた参考資料等のメーリングリスト配布について提案する。

No4-9-C 委員会時の資料の配布

各委員が本委員会での議論のため作成した資料はjcprg-scメーリングリストに添付ファイルとして送付することとする。

No4-10-C 次回運営委員会

次回は9/1(金) 13:30より開催。

荷電粒子管理運営委員会

2000 年度 第 5,6 回議事録

第 5 回

日時：2000 年 9 月 1 日 (金) 13:30 - 16:00

出席者：岡部、片山、千葉、能登、平林、大林*1、升井*1、吉田*2

欠席者：大西、加藤

議長：平林、書記：大林 *1:オブザーバ、*2 アシスタント

第 6 回

日時：2000 年 9 月 18 日 (月) 13:30 - 16:00

出席者：大西、加藤、岡部、片山、千葉、能登、平林、大林*1、升井*1、吉田*2

欠席者：なし

議長：大西、書記：大林 *1:オブザーバ、*2 アシスタント

第 5,6 回委員会では、特に Otto Schwerer 氏の来札時の本運営委員会における受入体制について集中して議論した。この議論をもとにし Schwerer 氏滞在の一ヶ月間を「Otto Schwerer 氏との核データワークショップ」と題し活動を組織する。

「Otto Schwerer 氏との核データワークショップ」組織委員会活動案 (9/18)

[A.はじめに]

北海道大学知識メディアラボラトリーでは、日本荷電粒子核反応データグループ(JCPRG)管理運営委員会の推薦により国際原子力機関(本部 ウィーン)核データ部(IAEA-NDS)の Assistant Nuclear Data Physicist である、Otto Schwerer 氏を 9/28-10/30 の一ヶ月間招聘する。今回の招聘は本管理運営委員会委員長の加藤幾芳が VBL にて遂行する CONTIP プロジェクトに対し、VBL 在外研究員招聘制度を利用することにより実現した。本文はその間の活動内容および体制について本管理運営委員会において議論したものをベースとし、「Otto Schwerer 氏との核データワークショップ」と題しこの一ヶ月間の活動を組織することおよびその内容についての議論をまとめたものである。

[B. 現時点での確認、決定事項]

1. Schwerer との共同作業の内容およびその体制

1) NTX 作業および NTX システムの開発

- i) TRANS E016, E017, E018 のファイルの修正とそれに伴う議論
 - ii) 最近の新規入力済 NRDF データの EXFOR への変換
 - iii) 既存 NRDF データの中で EXFOR 未変換データの変換可能性の検討
- 以上の作業、および議論を片山、能登、千葉を中心に行う。

2) 各種ユーティリティコードのインストール、利用および移植の検討および作業

IAEA, NNDC 等が保持しているユーティリティコードを我々の環境でも利用可能にすることを検討する。IAEA では各種ツールを OpenVMS 上で動作させ利用している。Schwerer には事前にこの事について相談しておく。

実際の作業者については議論未了であるが、VBL PostDoc がメインに行うことになるか？

II. タイムテーブル

Schwerer 来札後、10/2(月)から以下のスケジュールをコアにして作業を行うことが、了承された。

	月	火	水	木	金
08:45- 10:15			Lecture		
10:30- 12:00			Lecture		
12:00- 13:00	Lunch Time				
13:00- 14:30	Meeting		Chiba	Noto	
14:45- 16:15	↓	Katayama	↓	↓	
16:30- 18:00		↓			

Meeting: General Meeting (変換作業に関する全体ミーティング)
片山、千葉、能登、Schwerer は必ず参加する。
各メンバの分担作業の進捗状況の報告や全体の議論を行う。

Katayama, Chiba, Noto : 片山、千葉、能登はそれぞれ火水木の午後
Schwerer と必要時に議論可能なように、北大に滞在する。

Lecture : EXFOR Lectures
EXFOR についての講義を週一回程度のペースで
水曜 1 または 2 コマに行う。

上記以外の議論等は必要に応じ Schwerer にアポイントメントを取りながら行って行く。
コーヒープレイク時間の有効利用などうまく進めたい。

III. シンポジウムの開催について。

10/7(土) に C-III. に示すスケジュールに基づきシンポジウムを行う。

シンポジウム開催の目的は以下の二点。

- 1) 核データ活動一般の紹介
- 2) 特に NTX を軸とした相互の活動における問題提起の場としその解決に向けての方針を再確認する場とする。

シンポジウムの後 Welcome party を催す(幹事 吉田)。

IV. Schwerer 氏のセミナー又は講義についての検討

1) 考えられる聴衆のカテゴリ

- a. 運営委員
- b. VBL PD 等
- c. 上記以外の原子核理論研究室メンバ

- d. 工学部など原子力学会関係者
(原子力学会 北海道地区のメーリングリストに流すか。)
- e. その他

講演の場

◎workshop [聴衆 a,b,(c,d)?]

C-II の 1)-4)について、午前、午後の 2 コ 80x2(60+90)程度の Talk を Schwerer に依頼する。

◎週に一回シリーズの講義 [聴衆 a の一部, b]
C-II の 1) をより細かく 90min x 数回程度で。

V. 居室環境および各活動の実施場所

理学部 2 号館 8-09 室を Schwerer 氏およびともに作業をするメンバの居室とする。
ネットワーク配線、黒板、家具等の整備が必要。Schwerer 氏+2,3 人分の作業用机を配置する。想定される計算機配置は、Schwerer 氏持参の NotebookPC、英語版 Windows95 を搭載したデスクトップ PC、日本語 Windows を搭載した NotebookPC 等である。議論を円滑な進行を補助するため、OHP、液晶プロジェクタ、スクリーンを利用できるようにする。講義室は VBL、または核理論研究室セミナー室の利用を予定する。大林は、VBL についてはコラボレーション研究室利用の予約等を調整し、核理論研究室セミナー室については核理論グループと調整を行う。

VI. その他議論

IAEA, NNDC 等の利用しているプログラムの移植の観点から OpenVMS 機の導入が議論された。今後 Compaq は OpenVMS をアカデミックフリー OS とするとの情報があり、これが本当であれば Alpha チップマシンが購入できれば OpenVMS 機の導入が可能になる。IAEA, NNDC が保持している OpenVMS をベースとした資産のミラー化など今後の核データの国際共同活動の観点からは将来的に検討する価値のある議題であるが今年度の経費切迫の事情もあり現在のところは見送らざるを得ないとの結論に達した。

千葉、能登、片山ら関係各メンバーに対し、Schwerer 氏との共同作業の内容についての計画を全体における作業と個人ごとに行う予定の作業に分けて本委員会に明示して欲しい旨の要求が出された。それら計画に応じハード、ソフトの整備や資料の整備を事前より行っていく。

資料の整備作業としては、

E016, E017, E018 の NTX データの検討に必要なデータファイル、論文ハードコピー等の用意
従来変換できなかった NRDF コードファイルやその他変換に関わるデータファイルと対応する論文のコピーを吉田と大林が用意する。

[C. 資料]

以下、I. は Schwerer 氏本人の札幌滞在時の作業内容の提案。II. はセミナーや講義を行うと仮定した場合の講演内容のリストアップ。III. は現時点での 10/7 のワークショッププログラム案である。

I. Schwerer からの来日中の作業提案

1) Go through preliminary TRANS E018, discuss/correct problems about detailed compilation problems such as:

REACTION coding with respect to particle considered (SF7),
sequence of outgoing particles (SF3,SF4), use of PAR in SF5,
consistency of SF6 with units and necessary independent variables; etc.
various problems with entry E1678

2) General items about TRANS files

Structure of TRANS files (entry sequence; use of NOSUBENT; etc.)

Introduction of 4-digit year in relevant keywords (REFERENCE,
HISTORY, etc.) as well as system identifiers

Consider using lower case characters for free text

Procedure to send corrected entries (retransmissions) on new TRANS files
(with proper use of HISTORY entries and alter flags)

3) Going back to previous TRANS files (E017, E016 and before):

remaining corrections;

looking at entries which were removed from final version (probably
because of translation problems)

4) EXFOR check programs (CHEX, TEST-EXF), other programs from NNDC, possible use

5) Dictionaries: EXFOR dictionaries as described in manual; DANIEL; Archive dictionaries: optimal use for translation from NRDF, updates, etc.

Also, I would be interested to learn about the NRDF format and the translation
procedure into EXFOR (if any information or description in English is
available), and about the original compilations from experimental works into
NRDF.

While I expect that these technical items will occupy almost the whole time of
my stay, I would like to use the opportunity of the visit also for brief
discussions on some more general topics of nuclear reaction data, such as:

- EXFOR and CINDA compilation in Japan

- suggested special topics for next technical NRDC meeting in Vienna (May 2001)
of which I will be the Scientific Secretary.

Additional, or more detailed, topics and questions will certainly come up
during preparations for the trip and during my stay. Of course, I am willing
to assist in any other related problems on request of my hosts, if it is within
my competence. Also, any suggestions for additional topics or modifications of
the items proposed above, are welcome.

II. Schwerer からの講義案から。

1) EXFOR - either general or selected topics such as:

format and compilation rules, quantities, dictionaries,
utility programs, user retrieval interfaces,etc.

(Any duration possible - from 15 minutes to many hours, but I don't know
whether this is an attractive topics for many of your participants, perhaps
this is of interest only to people directly involved)

2) Data center networks (brief overview, perhaps 15 minutes)

3) Nuclear data libraries and online services available from IAEA-NDS
(This is originally a lecture of 1 1/2 hours for potential nuclear data users who are scientists but not so familiar with our online services; it could be reduced in duration)

4) Introduction to IAEA-NDS activities

As part of my own introduction to your staff,
I could give a brief overview of the IAEA in general and other international organizations in Vienna. If this very general subject should be of particular interest, it could be made a short presentation of its own.

III. シンポジウムプログラム(9/18 版)

時 : 10 月 7 日 (土) 09:30 -17:30

場所: VBL 二階コラボレーション研究室(東)

プログラム

午前

09:30-09:45 加藤 or 田中(一)「シンポジウム開催にあたって」

09:45-10:00 岡本浩一「Otto Schwerer 氏紹介」

10:00-11:00 Schwerer Talk I

11:00-11:15 Coffee break

11:15-12:00 千葉正喜「N2X システムレビュー」

12:00-14:00 Lunch Time/追加セッション

午後

14:00-15:00 Schwerer Talk II

15:00-15:15 Coffee break

15:15-16:00 能登宏「NRDF 辞書レビュー」

16:00-16:15 Coffee break

16:15-17:15 PostDoc システム開発レビュー(20x3)

17:15-17:30 加藤幾芳「Closing」.

18:00- Welcome party 「ファカルティハウス エンレイソウ」にて

荷電粒子管理運営委員会 2000年度 第7回議事録

日時：2000年11月6日(月) 17:30— 20:00

出席者： 大西、岡部、加藤、片山、千葉、能登、平林、大林*1

欠席者： なし

議長： 大西、書記： 大林 *1:オブザーバ、*2 アシスタント

No#A-#B-#C

#A: 第A回委員会, #B: 議案番号,

#C: R/報告、P/提案、D/議論、A/活動分担、C/決議事項

-
- No7-1-R 加藤 Schwerer氏
今回のSchwerer氏との一ヶ月の活動により、EXFORのチェックプログラムも我々で利用可能になるなど、NRDFフォーマットデータのEXFORへの変換作業がよりスムーズに行われる為の道が開かれた。
- No7-2-R 加藤 升井氏
升井氏が9月末をもってVBLのCOEを辞職した。
- No7-3-R 加藤 VBL外国人研究者招聘
VBLの外国人研究者招聘枠に、ベルギー自由大学のP. Descouvemont氏を希望する申請をした。採択されれば来年1/15-2/15の一ヶ月間札幌に滞在することになる予定。
- No7-4-R 大林 Schwerer氏との活動の報告
第5、6回議事録にある計画のもとOtto Schwerer氏との活動が行われた。この一ヶ月で当初第一の目的であったE016、E017、E018の変換の完成についてはひとまず終了させることができた。また、E010、E011の中で変換が未完成であったデータを今後新たにE019として提出すべく変換の作業が継続中である。今後はIAEAで用いているEXFORチェックプログラム等のツールも我々で利用可能となったのでより正確な変換を可能にすることができるものと期待される。またEXFORコードでのデータ収集方法などの教示を通じ、EXFORに対応するコーディングエディタの開発などNRDF、EXFORのフォーマットを同時にコード化することの検討などが行われた。これらの議論から、NRDFからEXFORへの変換という考え方にとらわれぬ新しい方向性も考えられる。ただし、今後の個々の運営委員の活動目的、内容の明確化を始めとして課題は多い。運営面での改善が望まれる。
- No7-5-P 編集委員 報告書の編纂計画
今年度活動報告書の内容を議論したい。
- No7-5-A 担当者 報告書の編纂計画
議論に基づき報告書の内容について議論を続けるとともに、執筆担当者は内容の検討を開始する。
- No7-6-P 加藤 VBL次期プロジェクトについて
VBLの次期プロジェクトの検討を行う時期にきている。CONTIPプロジェクトをここで一段落させ、核データの評価に関して新規プロジェクトを検討してはどうか。
- No7-6-A 全員 VBL次期プロジェクトについて
評価に関しては、天体核データだけでなく、高エネルギー陽子破砕反応データなど他にも可能性があるテーマがある。
また評価目的以外にもNRDFデータのフォーマットのXML化等、新たな検討をすべきとの意見もあり、今後も議論を続けてゆく必要がある。
- No7-7-P 加藤 データの著者校正について
データの著者校正について検討を始めたい。
手始めに、去年収集したデータを対象として、第一著者にデータ閲覧ページのURL等の情報を送り生データの提供について依頼する。実験グループとうまく交流ができるようであればすばさかのほって生データ提供の依頼を行ってゆく。
- No7-7-A 加藤 データの著者校正について
具体的な活動案を次回の運営委員会にて提案し議論することとする。
- No7-8-C 次回運営委員会
次回は12/11(月) 17:30より開催。

荷電粒子管理運営委員会

2000年度 第8回議事録

日時：2000年12月11日(月) 17:30— 20:30

出席者：大西、加藤、片山、能登、平林、大林*1、布施*1

欠席者：岡部、千葉

議長：大西、書記：大林 *1:オブザーバ、*2 アシスタント

No#A-#B-#C

#A: 第A回委員会, #B: 議案番号,

#C: R/報告、P/提案、D/議論、A/活動分担、C/決議事項

-
- No8-1-R 加藤 P. Descouvemont氏
1/13-2/16 P. Descouvemontの招聘が決定した。
- No8-2-R 加藤 近江氏
VBLのポストドクとして2001年1月～3月迄近江氏を採用することとした。
また今月末のVBL管理運営委員会にて来年度PostDocの採用について議論する予定。
- No8-3-P 能登 NTX-WG報告
ワーキンググループで議論している辞書についての検討についての現状での問題点を別紙資料で用意した。
この場でその内容について議論したい。
- No8-3-C 能登 NTX-WG報告
議案に基づき、NRDF辞書の内容について議論を行った。今回の議論内容は今後のNTX-WGの報告に盛り込まれていく予定である。
- No8-4-P 大林 著者校正作業に向けて
収録データの著者校正作業の作業計画を作成した。これをもとに具体的な作業の検討に入りたい。
- No8-4-A 加藤他 著者校正作業に向けて
校正作業の作業案に基づき、加藤、吉田、大林は具体的な作業へ向けて運営委員等の作業分担調整に入る。
- No8-4-C 著者校正作業に向けて
作業計画案を大枠で了承する。
- No8-5-C 次回運営委員会
次回は2001年1月15日(月) 17:30より開催

荷電粒子管理運営委員会 2000年度 第9回議事録

日時：2001年1月15日(月) 17:30— 20:30

出席者： 大西、岡部、千葉、加藤、片山、能登、平林、大林*1、吉田*2

欠席者： なし

議長： 大西、書記： 大林 *1:オブザーバ、*2 アシスタント

No#A-#B-#C

#A: 第A回委員会, #B: 議案番号,

#C: R/報告、P/提案、D/議論、A/活動分担、C/決議事項

-
- No9-1-P 年次報告書の内容について
前回運営委員会での議論に引き続き年次報告書の内容についての議論が行われた。
- No9-1-A 年次報告書
執筆者は執筆準備を開始するとともに、最終的な報告書の内容についての議論を続けることとする。
- No9-1-C 年次報告書
執筆原稿の締め切りを3月25日とする。
- No9-2-P VBL 次期Postdoc人選
次年度のVBL Postdocの人選についての議論を行った。
- No9-2-A VBL 次期Postdoc人選
早急に人選を進めることとする。
- No9-3-P 収集データの著者校正
前回の運営委員会にて提案された著者校正作業の遂行手順について引き続き議論が行われた。
- No9-3-A 収集データの著者校正
具体的な作業分担を行い、次回の管理運営委員会までに各担当データの持ち寄り、状況報告とその議論を行うこととする。
- No9-4-P P. Descouvemont氏招聘
P. Descouvemont氏の招聘時の活動内容の確認を行った。
- No9-4-A P. Descouvemont氏招聘
同氏および夫人のC. Angulo氏の来札中に、NACREデータベースの札幌におけるミラー化の議論を行う事とする。
- No9-5-C 次回日程
今回は2/19日(月) 17:30からの開催とする。

荷電粒子管理運営委員会 2000年度 第10回議事録

日時: 2001年2月26日(月) 17:30— 20:30

出席者: 大西、岡部、千葉、加藤、片山、能登、平林、大林*1、吉田*2

欠席者: なし

議長: 大西、書記: 大林 *1:オブザーバ、*2 アシスタント

No#A-#B-#C

#A: 第A回委員会, #B: 議案番号,

#C: R/報告、P/提案、D/議論、A/活動分担、C/決議事項

No10-1-R 加藤 P. Descouvemont氏
P. Descouvemont氏が2/22日に無事帰国。Emailにてお礼をいただいた。

No10-2-R 千葉 N2X
N2X作業を再開した。

No10-3-R 吉田 著者校正に向けて
D# 委員 学生
1700 加藤 明、鈴木
1701 岡部 明、鈴木
1702 能登 明、鈴木
1703 青山 大塚、合川
1704 大西 大塚、合川
1705 片山 大塚、合川

を担当者として著者校正に向けて、コーディングチェック作業を開始している。

No10-4-R 大林 ウィーンでの作業報告
2/13-2/22の10日間ウィーンのIAEA本部にて核データ部に滞在した。EXFORへの変換作業に関しては同部のO. Schwerer氏と共に昨年10月より行ってきたNRDFからの変換作業のまとめを行った。結果としてE016, E017, E018の最終版を完成、E019のPreliminary版の公開の目処をつけるところまで作業を完了した。E019についてはEXFOR辞書への物理量の提案三件を含み、近日中にNRDC間に公開する予定である。

No10-5-R 能登 NRDF辞書整備状況
NRDF辞書の整備活動について辞書のクラス分け、PHQ辞書の整備、Heading辞書(H辞書の)整備などの議論を行ってきた。今年度末を目処に議論の成果を辞書に反映させる作業を行っている。

No10-7-P 著者校正作業に向けて
今後の作業内容、スケジュールを議論する。

No10-7-A 運営委員 著者校正作業に向けて
各D番号データのチェックの内容をメールで流し、訂正事項などの提案書を作る

学生の疑問点を委員と相談する。。

委員はそれぞれの分担を提案して、訂正の提案書を回覧する。
あて先はjcprg-sc@nrdf.meme.hokudai.ac.jp

それぞれの回覧した提案が委員内で了承されたら、jcprg-scの
反対事項にはレスポンスする。対案があれば対案を出す。

例、エラー訂正の方法
新規コードの提案

一週間に確定した訂正作業内容を、担当学生と吉田さんに伝達する。

3/12(月) 訂正の締め切り

No10-8-C 次回運営委員会日程
次回運営委員会は3/19(月) 17:30より開催